

# 新庄城二の丸跡第2回発掘調査説明資料

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター 令和5年11月3日(金)

| 調査要項  |                                  |
|-------|----------------------------------|
| 遺跡名   | 新庄城二の丸跡 (遺跡番号 205 - 129)         |
| 所在地   | 山形県新庄市堀端町4番                      |
| 時代・種別 | 近世(城館跡)                          |
| 起因事業  | 公立保育所整備事業                        |
| 調査依頼者 | 新庄市                              |
| 調査機関  | 公益財団法人山形県埋蔵文化財センター               |
| 調査指導  | 山形県観光文化スポーツ部博物館・文化財活用課           |
| 調査協力  | 新庄ふるさと歴史センター                     |
| 現地調査  | 令和5年5月15日から11月14日まで              |
| 調査面積  | 1,800㎡                           |
| 調査担当者 | 調査研究専門員 菅原哲文(現場責任者)<br>主任主査 齊藤主税 |
| 検出遺構  | 建物跡 溝跡 土坑 柱穴 ピット                 |
| 出土遺物  | 陶磁器 瓦 金属製品 石製品                   |



図1 遺跡位置図 (1/25,000)

## 1 調査の概要と経過

新庄城は、元和8年(1622年)に新庄藩の初代藩主となった戸沢政盛により築城され、寛永2年(1625年)頃に城が完成したと伝えられます。二代藩主<sup>とざわまさもり</sup>の正誠<sup>まさのぶ</sup>は二の丸を拡張・整備しました。新庄は城下町として江戸時代を通じて栄えましたが、戊辰戦争により慶応4年(1868年)、城や城下は焼失しました。明治時代に廃城となった後、新庄中学校、新庄北高校の敷地となり、高校移転後は公園となりました。

調査は公立保育所整備事業によるもので、建物の建設場所が調査区となります。この場所は、二の丸内の米蔵があった地点です。調査は5月15日より開始、重機で現代の盛土を除去し、第1面の調査を行いました。戊辰戦争時に火災となり、その後に整地された面

で、焼土や炭、米蔵に由来する炭化米が多く含まれる層(Ⅲ層)が広範囲に認められました。主に明治以降の遺構が認められます。

第1面の調査終了後、重機で掘り下げて第2面の調査を行いました。第2面は二の丸に関する遺構と、戊辰戦争後に瓦などを廃棄した遺構などが認められます。焼土遺構は戊辰戦争の際の火災によるもので、炭化材や炭化米を含みます。瓦が廃棄された土坑や廃棄地点は3カ所確認されました。

1区では、建物の礎石や柱穴が検出されました。礎石は大型で方形の割石や円形・楕円形状の自然石が使われています。大型の礎石は直径が50cm以上で、火災による被熱の痕が残ります。後世の攪乱で失われた礎石もあり建物規模は不明ですが、江戸時代の米蔵の礎石に該当すると考えられます。

9月中旬以降から、再度重機による掘り下

げを行い第3面の調査を開始しましたが(写真1・2)、大量に瓦が出土する遺構による作業量の増加のため、期間を11月14日まで延長して行う予定です。

## 2 第3面の遺構と遺物

第3面は、新庄城の築城後に二の丸が整備されていった面と考えられます。調査区の西側には落ち込む地形が確認され、築城当初は湿地的な地形であった場所を、大量の瓦と土砂を入れて整地を行い、堅固な平場を造成していったと考えられます(写真3~5)。整地層の厚さは、第3面検出面から深い所で80~90cmに及びます。3区東側では、南北に延びる溝状の遺構や土坑などが確認されました(写真7・8)。江戸時代前半の時期と

思われますが、これらの遺構も二の丸の整備に伴い埋め立てられ整地されたと推測されます。

第3面の遺物は江戸時代の瓦や陶磁器、金属製品、石製品が出土しました。瓦は黒色の丸瓦と平瓦が主です。鯨瓦<sup>しやちがわら</sup>と考えられる破片も出土し(写真10)、城内の建物で不要となった瓦をこの場所の整地に使っていたものと見られます。軒丸瓦(写真9)には戸沢家の家紋である「丸に九曜」の紋が施されます。

陶磁器は、九州の伊万里焼や唐津焼(写真11・12)が主に見られ、17世紀代になる古手のものが多いようです。中国産の青化なども少量伴います。その他、江戸時代の貨幣(一分金・寛永通宝など)や鉄製品・銅製品なども出土しました。



写真1 3区第2面の掘り下げ状況(東から)



写真2 3区第3面の調査状況(南から)



図1 調査区概要図



写真3 1区4トレンチの整地層（東から）



写真4 3区5トレンチ断面（南から）



写真5 3区SX120 整地層の瓦出土状況（北から）



写真6 3区SX75 瓦出土状況（北西から）



図3 第3面のオルソ写真



写真7 3区東側の遺構（東から）



写真8 3区東側の遺構（西から）



写真9 軒丸瓦



写真10 鯪瓦（上段・下段左）・刻印がある平瓦（下段右）



写真11 伊万里焼・青花（下段右端）

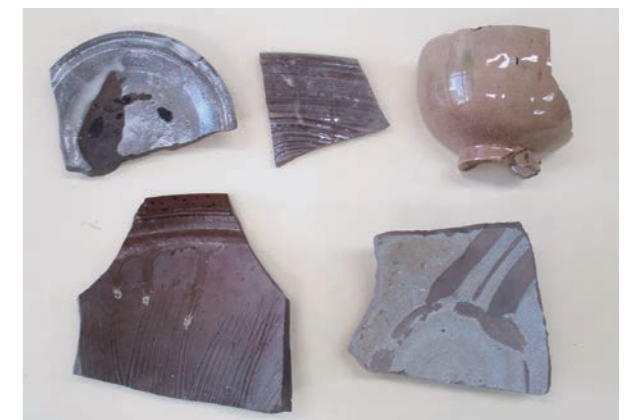


写真12 唐津焼